

クアラルンプール日本人学校 高木 恭子

こちらは本日より2学期が始業いたしました。

現地ではいろいろなことを勉強させていただいております。

今回は、日本とマレーシアの大きな国際交流行事である『盆踊り大会』についての御報告をさせていただきたいと思っております。

『マレーシア 4万人の盆踊り』



クアラルンプールでは、毎年7月中旬に、日本人会、日本人学校、大使館が中心となって運営する盆踊り大会が開催されており、今年で第35回を迎えました。この盆踊り大会は、日本でも類を見ないような大規模なもので、会場の真ん中には大きな櫓(やぐら)が設置され、約4万人もの人が何重もの輪になって踊ります。この4万人という人々の数は、2010年の在マレーシア大使館調査による在留日本人の数は約9,700人であることからわかるように、日本人の数ではなく、現地の方々の数であることが注目される点です。櫓の上では、日本人学校の中学3年生が、太鼓をたたき、交流のある現地校の生徒たちと共に浴衣姿で踊ります。

圧巻なのは、櫓を取り囲む一般のマレーシアの方々が作る輪で、櫓の上から見ると、まるで巨大なバームクーヘンが熱気をあげてうねりながら団扇を振り、音楽と太鼓に合わせて声をあげながら櫓の周りをまわっている様に見えます。まさに、故郷岡山の西大寺の裸祭の時にあがるのと同じ白い湯気が人波の中からあがっているのが見えます。

日本人学校では、この日のために、毎日始業前から下校まで、休憩時間や使える時間を全て使い、太鼓をたたき、踊り、練習を重ねます。本番直前には、現地校教員を日本人学校に招いて本番と同じように太鼓を設置し、一緒にリハーサルを兼ねた練習会を体育館で行います。大会当日は、日本人学校の中学部教員は総出で運営にあたります。たいへん大きなイベントで、準備や練習は大変ですが、自国の文化を、異国にある4万人が取り囲む輪の中心で共に分かち合う経験は、参加する生徒たちにとってはもちろんのこと、私たち教員にとっても大きな感動であり、自国の文化に対する理解と認識を深めることの大切さや、国や人種、宗教や言葉を超えるものの貴さを肌で学ぶ機会となっています。



私自身の最近の日本での経験で、地域の盆踊りが毎年近所で開かれていたのですが、一般の人で実際に踊る人は少なく、婦人会の方や運営委員の方々が踊って見せるショーのような感じに年々なっていました。自分が小さな子どもだった頃には、近所や家族の大人の方が踊っている輪に入ってついて踊り、知らないうちに踊り方も身についたような記憶がありますが、今頃は、子どもたちと大人と一緒に輪になって踊るような場面はあまり見られない気がします。こうして、伝統的な文化が身近なものとしてではなく、特別に保存するような形で守られなければ伝えられなくなるのはとてももったいないと感じます。日本から遠きマレーシアのような異国において、こんなに多くの人たちが盆踊りを楽しんでいることをぜひ、一つの例として日本に伝えたいと思います。自分自身も、古きものの中、日常すぎるも

のの中に、各民族らしさを受け継ぐ大切なものがあることを忘れず、自国文化にも他の文化にも同じようにそれぞれにとって持つ意味と変化があることを畏敬の念と共に感じていたいと思います。

この盆踊りの様子は、NHK のニュースでも放映されており、インターネットを通じても見ることができます。機会があれば、ぜひご覧ください。また、マレーシアに7月中旬お訪ねになる機会がある方は、足をお運びになられる価値があるものと思います。 (クアラルンプール 高木 恭子)